

印刷データに不備がございますと、確認作業に時間が掛かり納期が遅れてしまう場合がございます。内容をご確認のうえ、データを作成いただきますよう、よろしくお願いいたします。

・ [データ形式について \(Adobe Illustrator \(AI形式 または EPS形式\)\)](#) 

・ [縫製・ハトメの仕上がりについて](#) 

・ [仕上がりサイズについて](#) 

・ [イラストレーターデータについて](#) 

・ カラーモードをCMYKにする

・ CMYKの合計を300%以下にする

・ 特色・RGB・グレースケールは使用しない

・ 使用画像は150dpi以上にし、埋め込みする

・ 文字はアウトライン化する

・ ブラシ・透明・シャドウ等の効果はアピアランス分割・ラスタライズ化する

・ 非表示レイヤーは削除する

・ 線の太さは 0.2pt 以上にする

## データ形式について

### 入稿可能なデータ

入稿可能なデータ形式は、Adobe Illustrator (イラストレーター) のaiデータ、もしくはEPSデータになります。



### 入稿できないデータ

Adobe PhotoshopやOffice系データ(Word・Excel・PowerPoint)、PDF形式、png、jpgの画像データでの入稿はできません。



## 縫製・ハトメの仕上がりについて

ビニプロの幕製品の印刷面では、折り返し加工の縫い目やハトメが幕の周囲に設置されます。



### ハトメ加工のみの場合

ハトメ加工や縫製部分に文字やデザインを配置すると潰れてしまう可能性がございます。デザインや文字は、余裕を持って**仕上がりサイズから40mm内側**に収めるようにしてください。



✗ 文字や絵柄がミシン糸やハトメにかかってしまいます



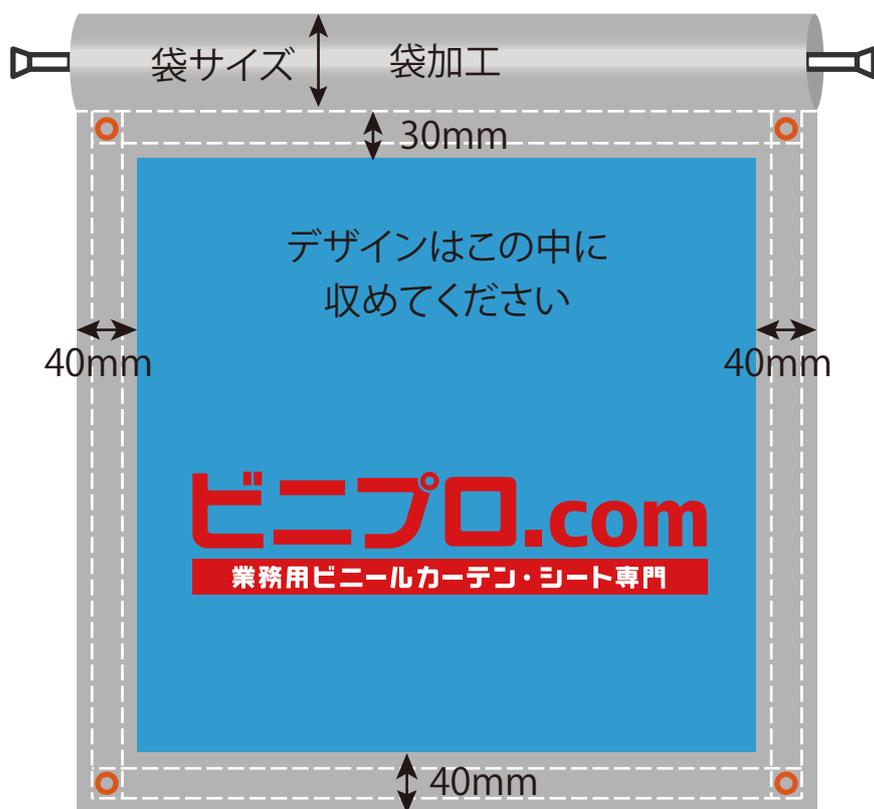
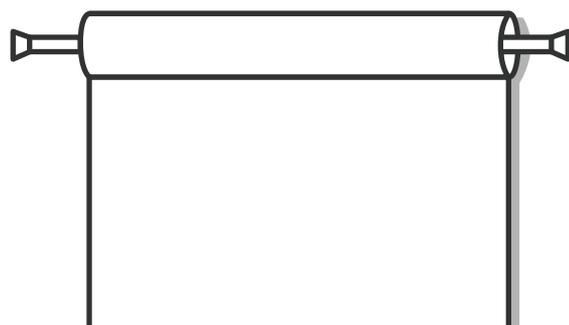
○ 文字や絵柄がミシン糸やハトメにかからずに製作できます



## 袋加工の場合

袋加工のデザインは、加工する辺に袋縫い部分と、さらに内側30mmに縫製が入ります。

そのため、袋加工を行う辺は、袋サイズ+30mm内側に、袋加工の無い辺は、40mm内側にデザインを収めてください。



✗ 文字や絵柄がミシン糸やハトメにかかってしまいます



○ 文字や絵柄がミシン糸やハトメにかからずに製作できます



※仕上がりサイズに袋サイズは含まれます。

※袋サイズ(袋加工部分の幅)は使用するパイプの幅によって異なります。

袋加工の場合は下記表を参考に、パイプサイズ(袋サイズ)をご確認のうえ、袋加工を行う際には、合計サイズよりも内側にデザインを作成してください。

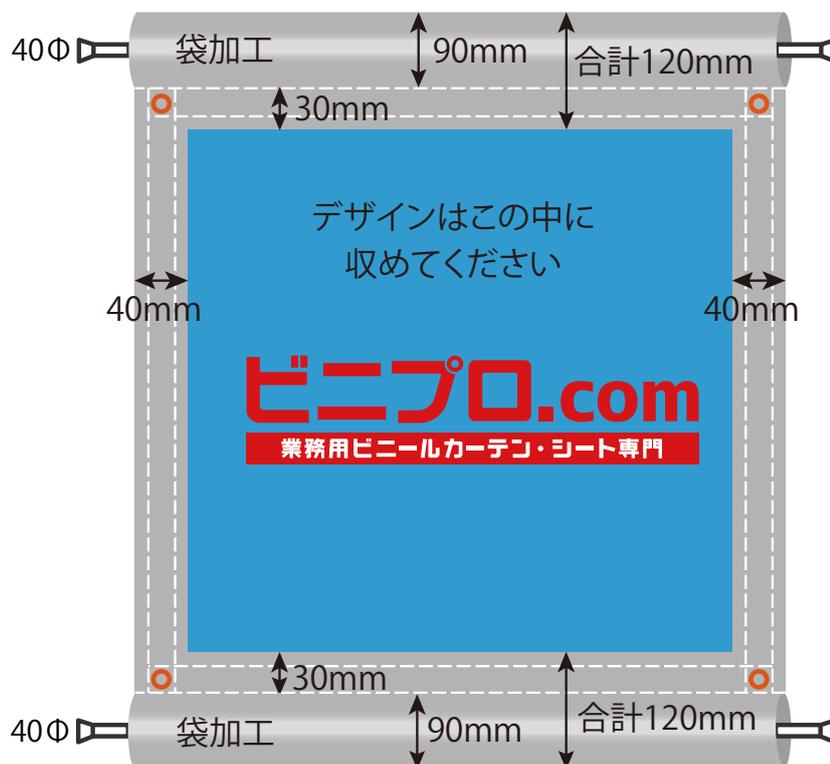
パイプ参考サイズ	合計サイズ
20Φ(袋 55mm)	85mm
25Φ(袋 60mm)	90mm
30Φ(袋 70mm)	100mm
32Φ(袋 80mm)	110mm
35Φ(袋 85mm)	115mm
40Φ(袋 90mm)	120mm
45Φ(袋 95mm)	125mm
50Φ(袋 100mm)	130mm
60Φ(袋 115mm)	145mm

例) 直径40mmのパイプが入る上下袋加工の場合

上辺:仕上がりサイズから120mm

下辺:仕上がりサイズから120mm

左右:40mm



## 仕上がりサイズについて

「仕上がりサイズ(ご注文サイズ)」とイラストレーターの「アートボードサイズ」を同じサイズにしてください。

幕サイズによっては実寸で製作するとデータ容量が重くなってしまう場合がございます。その場合は10分の1での製作も可能です。

※10分の1で製作した場合は埋め込む画像解像度は1500dpi以上必要です。

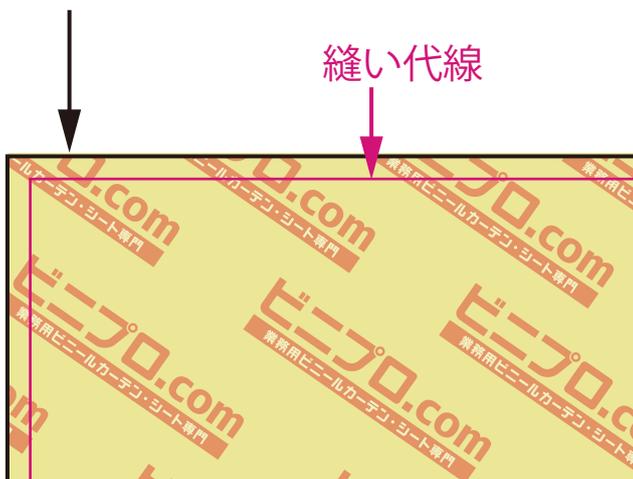
## 塗り足しについて

背景色・背景画像がある場合は、アートボードの四隅とぴったり合わせてください。内側の赤い線(縫い代線)から外側は縫製やハトメの兼ね合いで絵柄が隠れる場合がございますので、見せたい文字や絵柄は赤い線よりも内側に配置するようにしてください。オブジェクトがアートボードからはみ出す場合は、必ずクリッピングマスクをかけてください。

※塗り足しやトンボは作成しないでください。

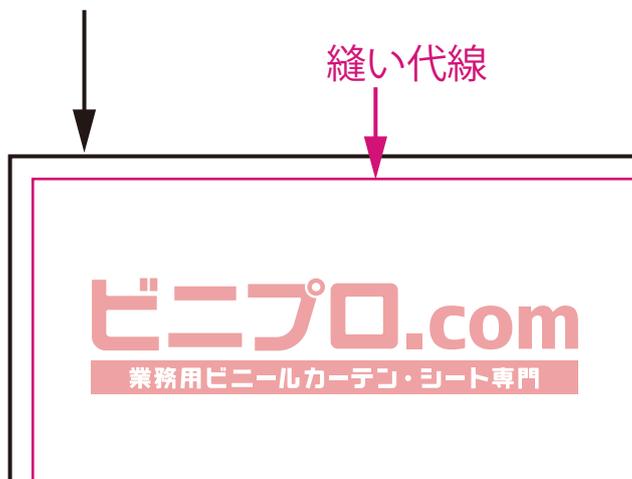
### 背景色・背景画像があるデータ

仕上がり線(幕サイズ) = アートボード



### 背景色・背景画像がないデータ

仕上がり線(幕サイズ) = アートボード



## イラストレーターデータについて

### カラーモードを CMYK にする

カラー設定はCMYKのみ使用可能です。特色やRGBは使用できません。すべてのカラーは必ず CMYK に変換してからご入稿ください。

### CMYK の合計は 300% 以下にする

CMYKの合計が300%を超えるカラーの場合、印刷時に乾かない・裏移りする等のトラブルになる可能性があります。

リッチブラック等の (CMYKの合計が300%を超える)カラーが入っていないか確認をし、**CMYKの合計が300%以下**になるよう調整してください。

### 特色・RGB・グレースケールは使用しない

幕製品の印刷には**スポットカラー(特色)・RGB・グレースケールは使用できません**。  
ビニプロの印刷はCMYK(C:シアン、M:マゼンタ、Y:イエロー、Kブラック)の4色を掛け合わせて使用するプロセスカラー印刷になります。  
特色・RGB・グレースケールを使用している場合は、CMYKに変換してください。

### 使用画像は 150dpi 以上にし、埋め込みする

幕製品に印刷する画像は、原寸で150～350dpiのものを使用し、イラストレーターには埋め込み配置をしてください。**※アートボードサイズを10分の1で制作した場合は解像度1500dpi以上が必要です。**

## イラストレーターデータについて

### 文字はアウトライン化する

文字のアウトラインとは、文字のテキストデータを図形にすることです。デザイン通りに印刷するため、**全ての文字をアウトライン化**してください。

### ブラシ・透明・シャドウ等の効果はアピアランス分割・ラスタライズ化する

ブラシ・シンボル・ドロップシャドウ・透明・グラデーションなどの[効果]を使用したオブジェクトは見た目は変化して見えますが、データ上は形状の変化が適応されません。[効果]を使用したオブジェクトは、「アピアランスを分割」または「ラスタライズ化」をしてからご入稿ください。

### 非表示レイヤーは削除する

入稿に必要なないレイヤーは削除してください。

### 線の太さは 0.2pt 以上にする

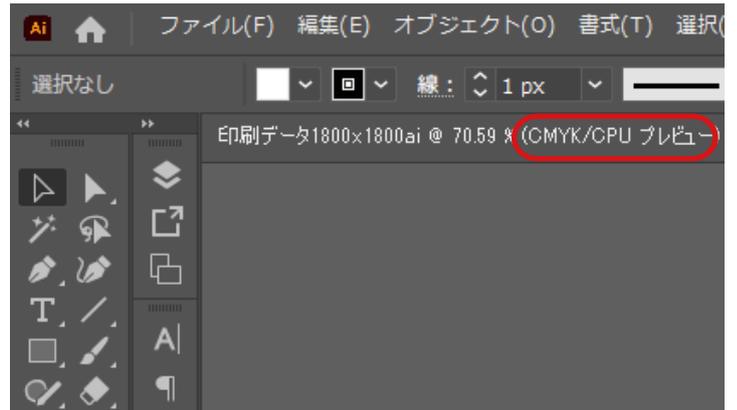
線の太さは最小 0.2pt になります。線の太さは 0.2pt以上 で制作してください。

## カラーモードをCMYKにする

カラー設定はCMYKのみ使用可能です。特色やRGBは使用できません。すべてのカラーは必ずCMYKに変換してからご入稿ください。

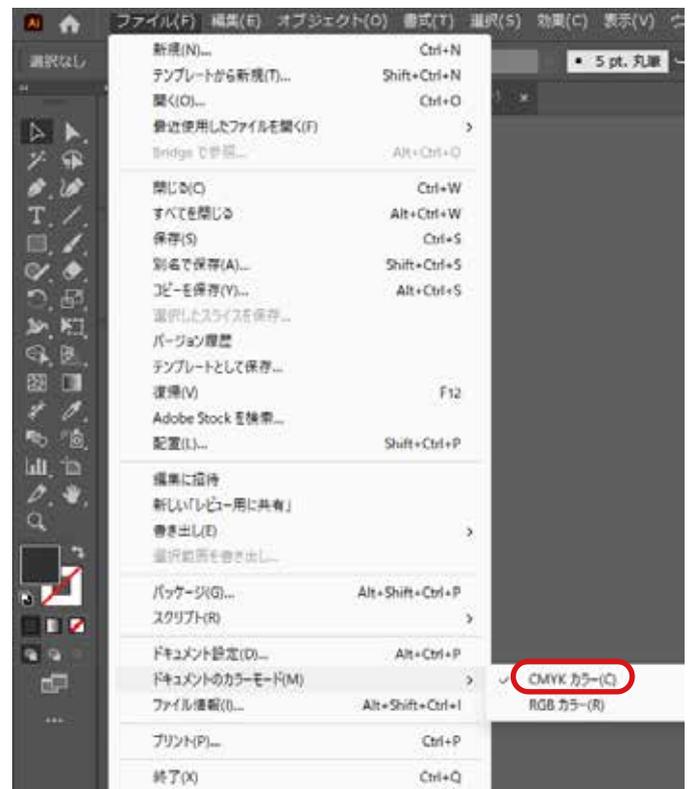
### データのカラーモードを確認する

データ名の隣の表記がCMYKになっていることを確認してください。



### CMYK に設定する方法

[ファイル]→[ドキュメントのカラーモード]  
→[CMYK]で設定できます。



## CMYKの合計は300%以下にする

CMYKの合計が300%を超えるカラーの場合、印刷時に乾かない・裏移りする等のトラブルになる可能性があります。

リッチブラック等の(CMYKの合計が300%を超える)カラーが入っていないか確認をし、**CMYKの合計が300%以下**になるよう調整してください。

### CMYKの合計の確認方法

[ウィンドウ]→[カラー]でカラーパネルを開きます。

オプションをクリックしてCKYKを選択し、合計を確認してください。

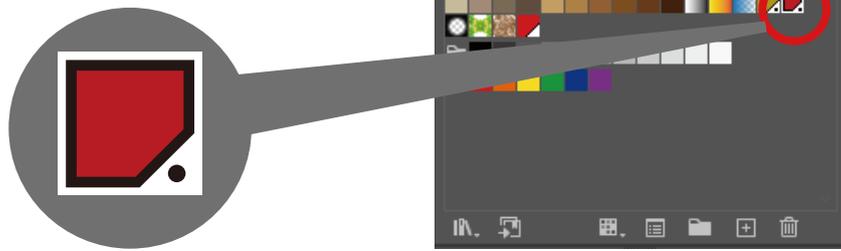


## 特色・RGB・グレースケールを使用しない

幕製品の印刷にはスポットカラー(特色)・RGB・グレースケールは使用できません。ビニプロの印刷はCMYK(C:シアン、M:マゼンタ、Y:イエロー、Kブラック)の4色を掛け合わせて使用するプロセスカラー印刷になります。特色・RGB・グレースケールを使用している場合は、CMYKに変換してください。

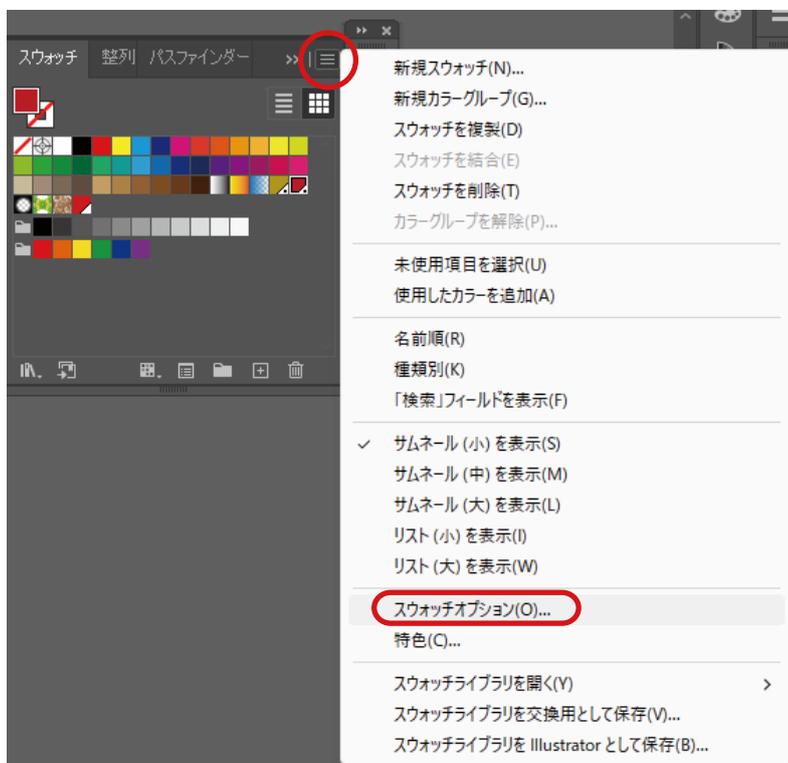
### 特色を使用しているかの確認と CMYK に変更する方法

- 1.特色を使用しているかの確認は、Illustratorのスウォッチパネルで確認することができます。カラーの右下に「白い三角と点」がある状態のものが特色(スポットカラー)です。

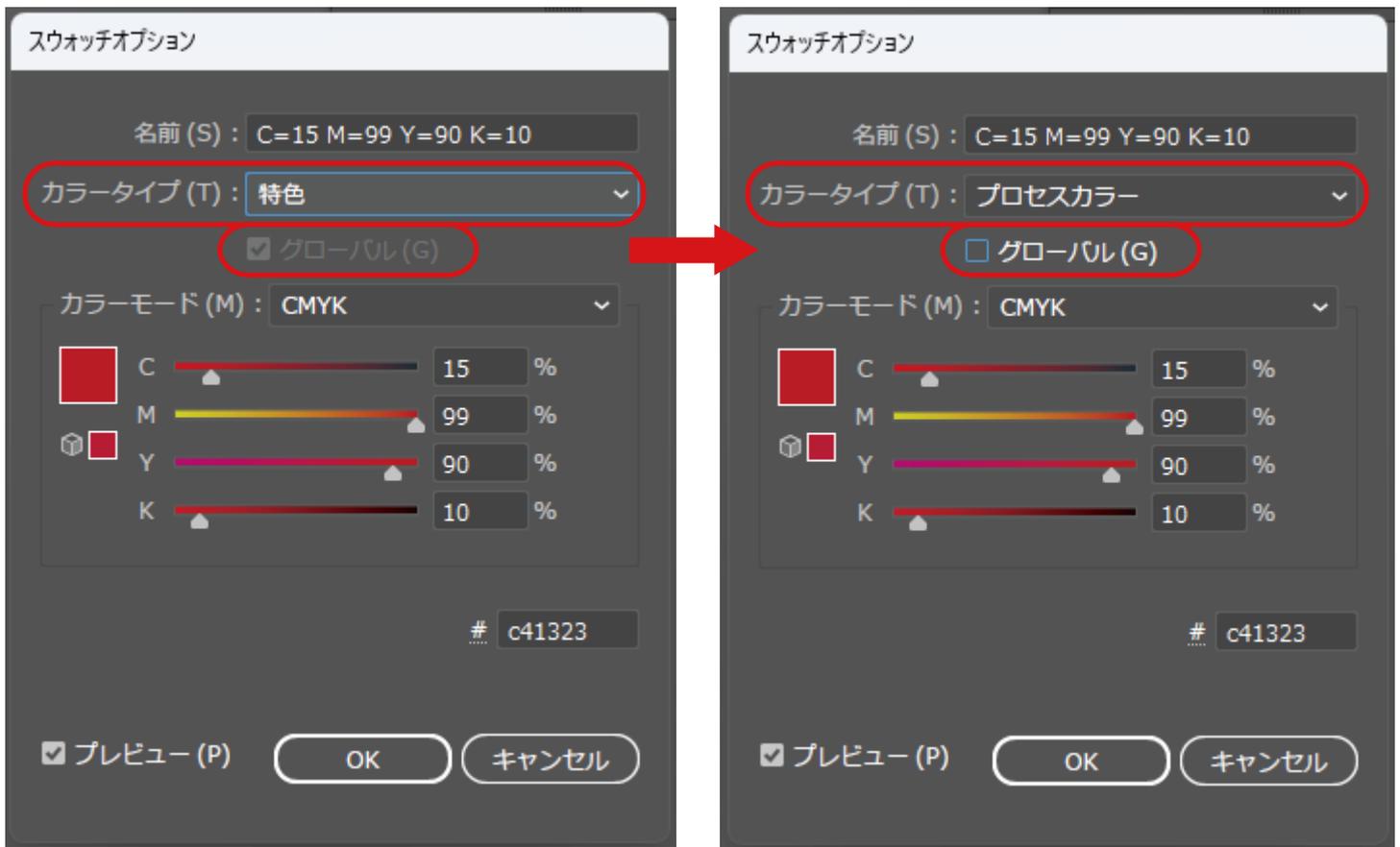


- 2.特色(スポットカラー)を選択したまま、スウォッチパネルのメニューから[スウォッチオプション]を選択します。

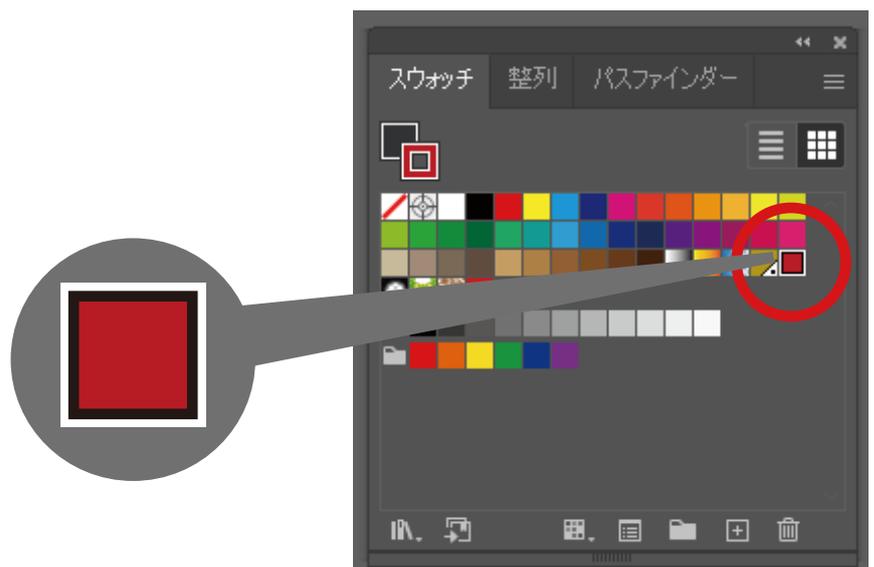
※オブジェクトを何も選択していない状態で行ってください。



3.カラータイプを、[特色]から[プロセスカラー]に変更し、[グローバル]のチェックを外します。



4.カラーの右下にあった「白い三角と点」がなくなり、「プロセスカラー」に変更になります。



## グレースケールは CMYK に変換する

変換したいオブジェクトを選択した状態で、  
[編集] → [カラーを編集] → [CMYKに変換]  
を選択して変更してください。



## 使用画像の解像度は150dpi以上にする

幕製品に印刷する画像は、**原寸で解像度が150～350dpi**の画像を使用してください。

150～350dpiの画像



150～350dpiの画像であれば鮮明に印刷が可能です。

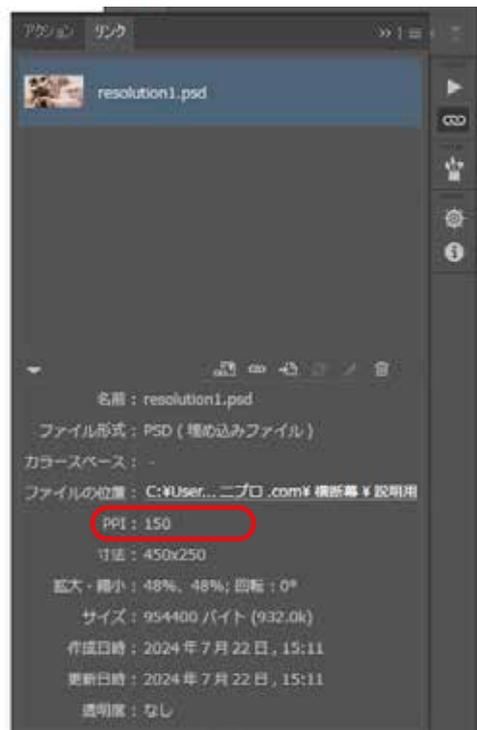
72dpiの画像



印刷する画像の場合、72dpiでは画像がかなり粗くなります。

### イラストレーターで解像度を確認する方法

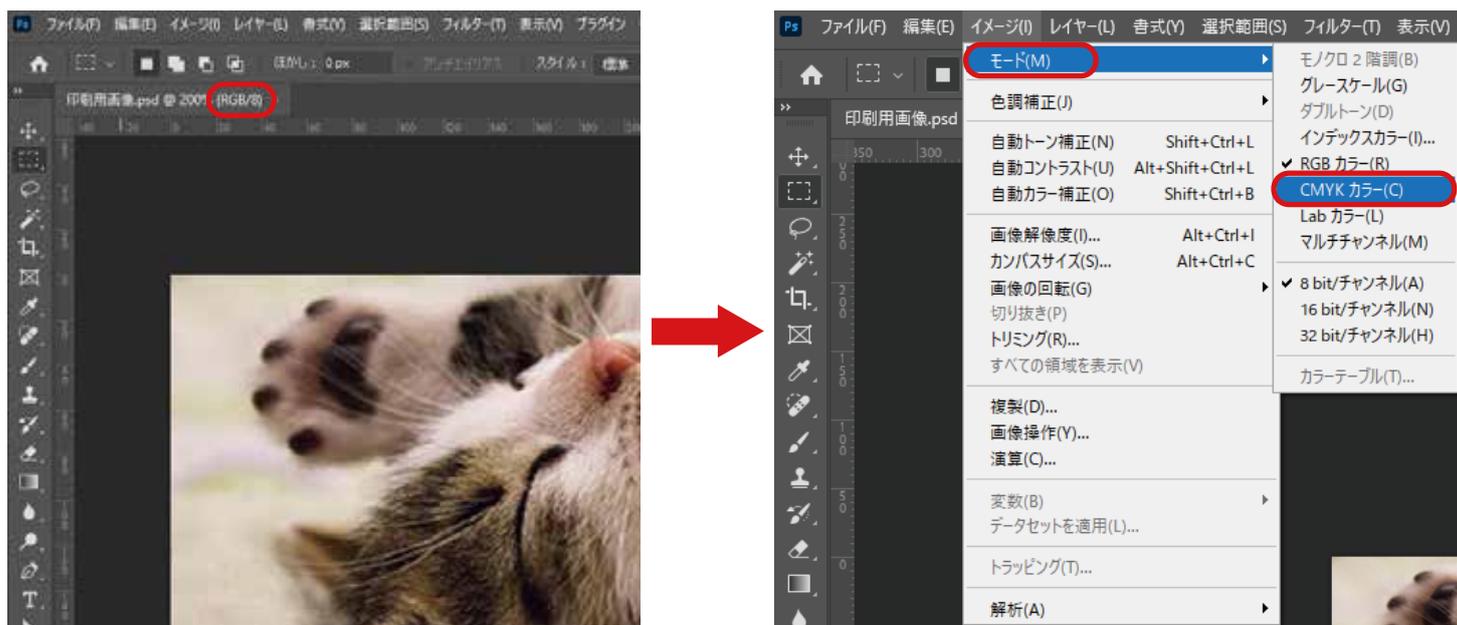
リンクパレットを開き、画像を選択して[PPI]を確認します。  
[PPI]が150以上であれば問題ありません。



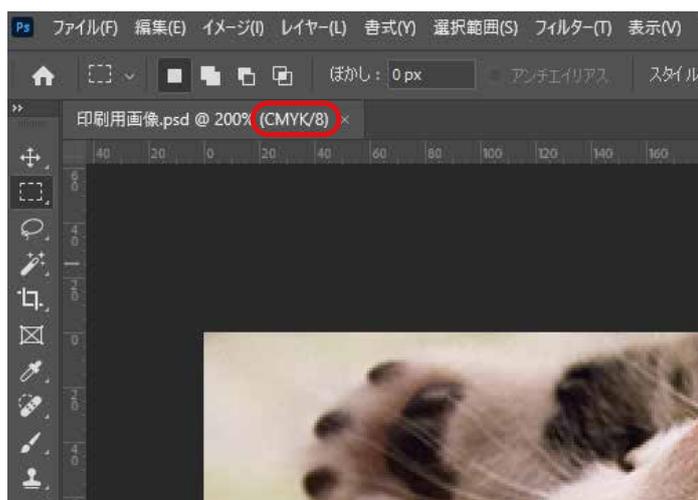
## カラーモードを確認・変更する (Adobe Photoshop)

幕製品に使用する画像は、カラーモードがCMYK、解像度は原寸で150～350dpiのものを使用してください。フォトショップで確認・変更する方法をご説明します。

使用する画像をフォトショップで開き、カラーモードを確認します。  
RGBの場合は、[イメージ]→[モード]→[CMYKカラー]を選んでください。



カラーモードがCMYKに変換されていることをご確認ください。



## 使用画像について

使用画像について、必ず解像度(とサイズ)が足りている画像をご用意ください。  
解像度が足りない場合は、改めて解像度が150dpi以上の画像をご用意していただくか、  
フォトショップで解像度を上げることも可能です。

## 解像度を上げる方法 (Adobe Photoshop)

解像度が足りない場合(150dpi以下)は、フォトショップのスーパーズーム機能で解像度を上げることも可能です。

※スーパーズーム機能は、AIでの画像補正となります。AIによる推測補完なので、画像によっては細部などが不自然になる場合がございます。

※あくまで、十分な解像度の画像がない場合のご案内になります。なるべく鮮明な元画像をご用意いただくことを推奨いたします。

使用する画像をフォトショップで開きます。

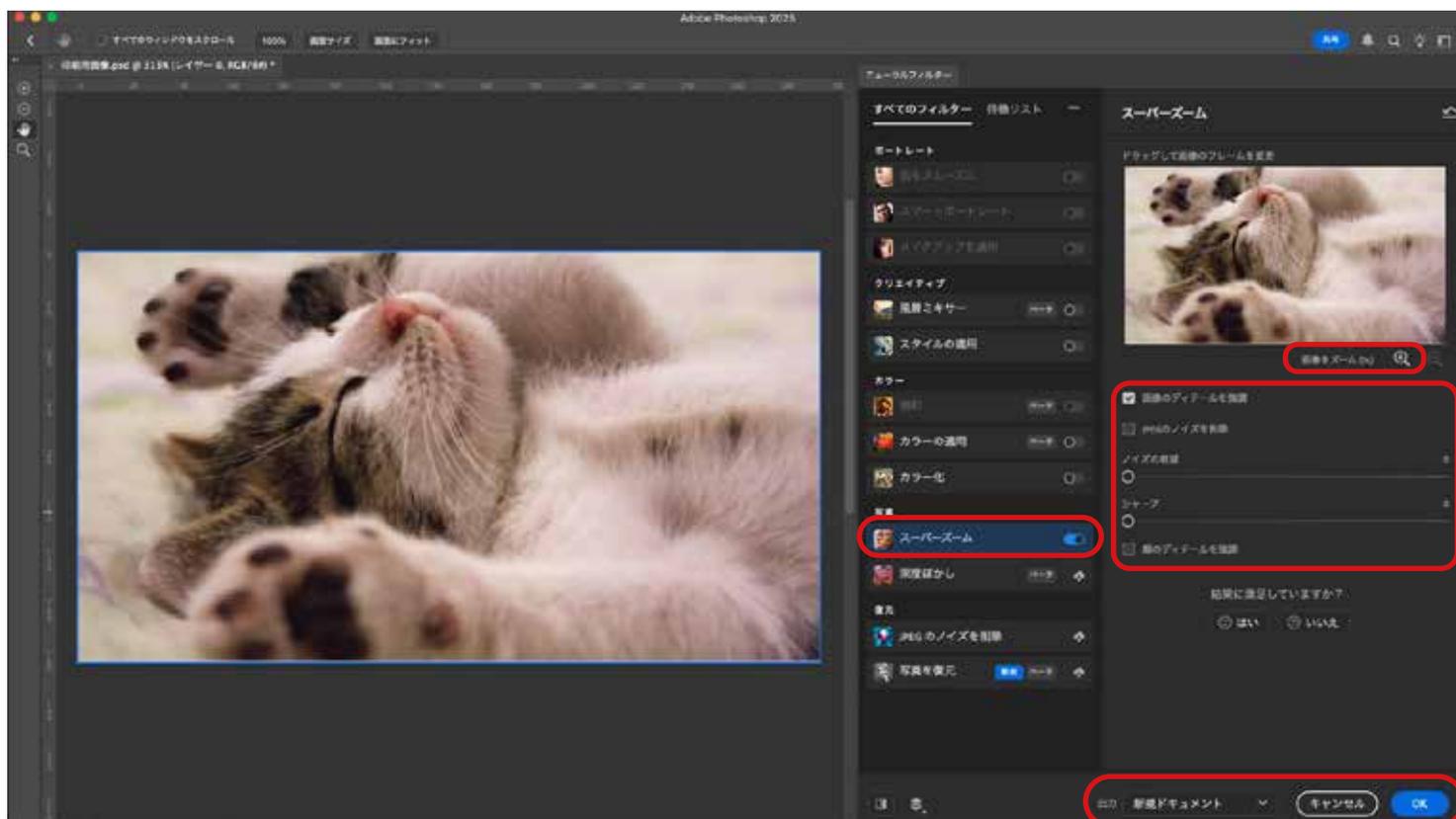
[フィルター]→[ニューラルフィルター]を選択してください。



## 解像度を上げる方法（Adobe Photoshop）

編集画面が開くので、フィルターの項目の中から、[スーパーズーム]を選び、トグルボタンをクリックして有効にします。

（初めてスーパーズームを使用する際はダウンロードが必要です。クラウドのアイコンをクリックして、ダウンロードしてください。）



画像のサムネイル下にある虫眼鏡にプラスのアイコンをクリックすることで、画像の解像度を上げることができます。

その下の、画像補正のパラメーターで細かな調整が可能です。

画像補正の調整で値を上げすぎると処理が極端になってしまうので、左のプレビュー画面を見ながら、微調整してください。

調整後、最下部にある出力の項目を[新規ドキュメント]に設定→[OKボタン]をクリックで、スーパーズームを適用させた画像を出力できます。

※スーパーズーム機能はPhotoshop 2022以降に搭載の機能となります。

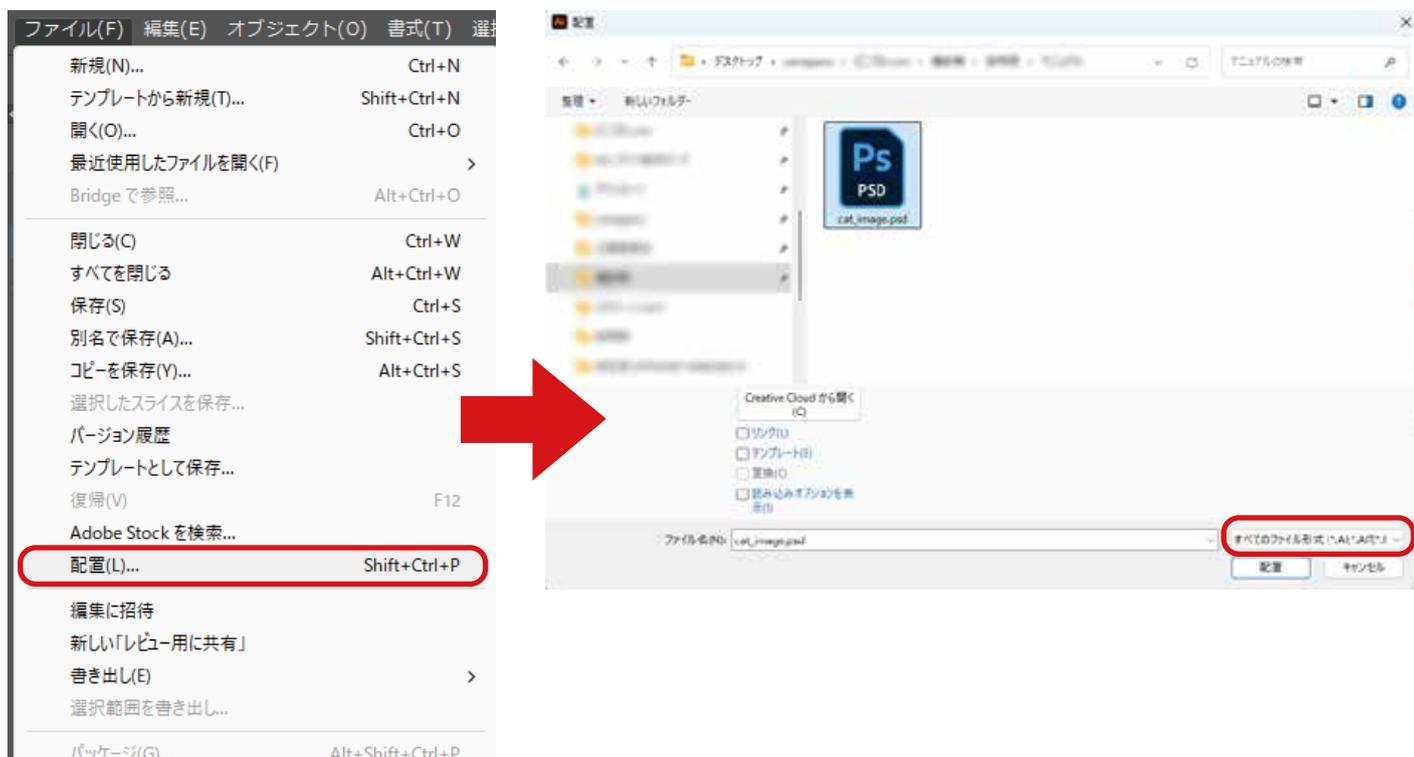
※スーパーズーム機能でエラーとなる場合、一度カラーモードをRGBに変更してお試しください。スーパーズームで拡大後、CMYKへの変換をお願いいたします。

## 画像の配置と埋め込み方法

イラストレーターに画像を配置後、埋め込みをしてください。  
画像データの形式は、[.EPS/.psd/.jpg/.png] などでも問題ありません。

### 画像の配置方法

[ファイル] → [配置] でPCに保存されている画像データが選択可能になります。

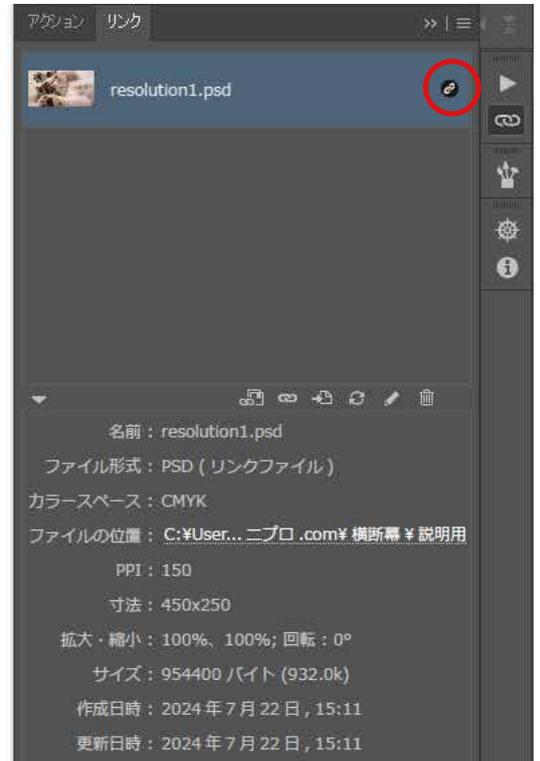
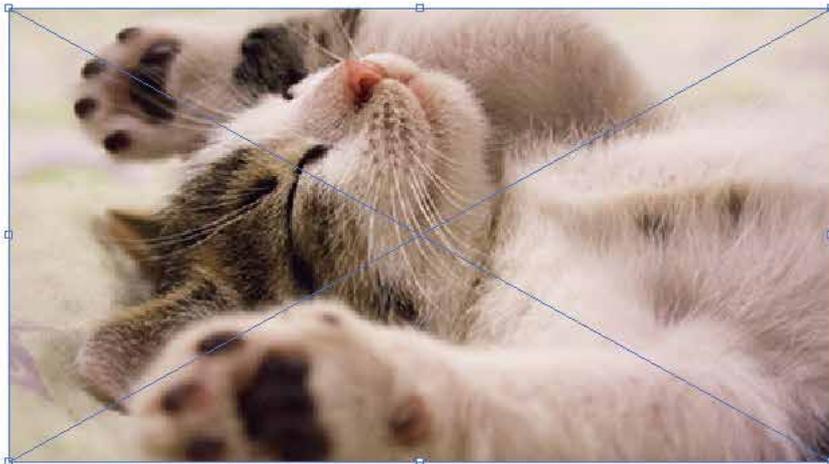


## 埋め込み方法

[ウインドウ]→[リンク]でリンクパネルを開きます。

リンクパネルに配置画像の一覧が表示されます。

右側に鎖のアイコンが表示されている画像は、リンク配置の状態です。



リンク配置の画像を選択し、オプションをクリックして[画像を埋め込み]を選択します。

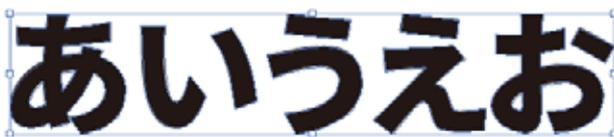


## 文字はアウトライン化する

文字のアウトラインとは、文字のテキストデータを図形にすることです。デザイン通りに印刷するため、**全ての文字をアウトライン化**してください。

### アウトライン化する方法

文字を選択し、[書式]→[アウトラインを作成]で文字がアウトラインされます。全ての文字をアウトラインする場合は、Ctrl+Aで全てを選び、アウトラインを実行してください。



## ブラシ・透明・シャドウ等の効果はアピランス分割・ラスタライズする

ブラシ・シンボル・ドロップシャドウ・透明・グラデーションなどの[効果]を使用したオブジェクトは見た目は変化して見えますが、データ上は形状の変化が適応されておられません。  
[効果]を使用したオブジェクトは、「アピランスを分割」または「ラスタライズ化」をしてからご入稿ください。

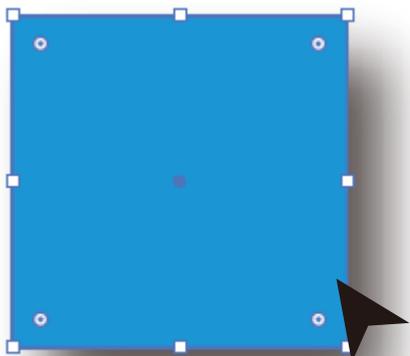
### 「アピランスを分割」または「ラスタライズ化」する前の設定

アピランスの分割・ラスタライズをする前に、[効果]→[ドキュメントのラスタライズ効果設定]で解像度を300dpiに設定してください。

The image shows two screenshots illustrating the settings for rasterizing effects. On the left is the 'Effect' menu, with 'Document Rasterization Settings (E)...' highlighted. A red arrow points from this menu item to the right-hand screenshot, which is the 'Document Rasterization Settings' dialog box. In this dialog, the 'Resolution (R)' is set to 'High Resolution (300 ppi)' and the 'Background' is set to 'Transparent (T)'. Other options like 'Anti-aliased (A)', 'Create Clipping Mask (M)', and 'Preserve Characteristics (P)' are also visible.

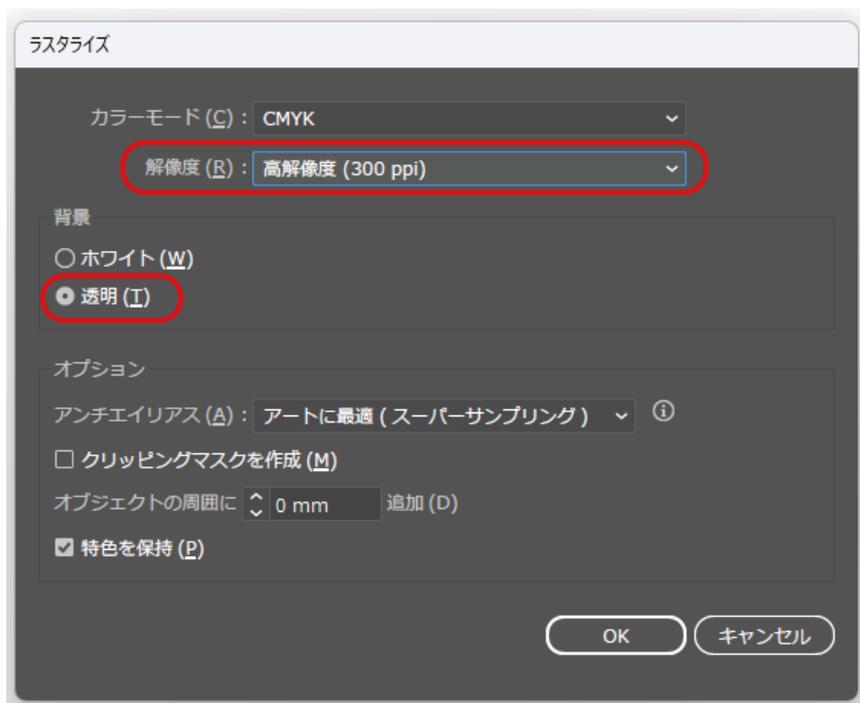
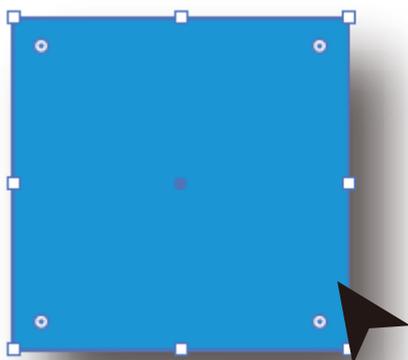
## アピアランスを分割する

効果を使用しているオブジェクトを選択し、[オブジェクト]→[アピアランスを分割]してください。



## ラスターライズ化する

オブジェクトを選択し、[オブジェクト]→[ラスターライズ]してください。



## 解像度を確認する

アピアランスの分割またはラスターライズしたオブジェクトは画像に変換されています。  
[ウィンドウ]→[リンク]で画像を確認すると、PPIは300になっていることが確認できます。

